

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101473
法人名	のみやま有限会社
事業所名	グループホームおさ
所在地	福岡県福岡市南区日佐3-40-30
自己評価作成日	平成23年11月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成23年12月5日	評価結果確定日	平成23年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は時間に拘束されことなく、各々のペースで生活している。 ・食量、携帯は各々の状態や好みに合わせて提供している。 ・地域の一人として、地域の行事に参加している。 ・医療面での連携体制が整っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>代表ほか全職員は入居者に寄り添いながら支援をしており、食事も家庭的な雰囲気とられている。様々な個人対応をしながら、介護計画の作成、外出支援、楽しめる食事支援等、全体を通して実行している。また、1年間の写真が1冊のアルバムに整理されており、行事や出来事が一目でわかる。地域の方や他のグループホームの方にも運営推進会議に参加していただき、多方面での情報交換も出来ている。何事にも前向きに工夫している。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒にいる喜びを感じる家庭」を理念に掲げ、地域住民との交流を大切にしたい取り組みを行っている。	代表ほか全職員は、入居者に対しては「ひとつの出会い」と思っている。ホームでは孤独を感じず安心して生活していただけるようにとの思いがあり、地域に密着した日々の生活の中で理念が実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として敬老会等の公民館行事の参加や近隣中学校の職場体験の受け入れ等地域との交流を図っている。又、地域の美容室も利用している。	自治会に入会しており、地域のイベントや、隣接している学校の学園祭等に積極的に参加している。民生委員や地域の方の健康、介護についての相談にも対応している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・随時介護相談を受け入れている。 ・グループホームの見学、相談や説明をしている。 ・地域の方や家族に防災訓練の参加を呼びかけている。 		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開きホームの状況や行事を報告している。参加者からの意見や情報を取り入れてサービス向上に努めている。	他のグループホームの方にも出席していただき、お互いに情報交換が出来ている。2カ月に1回の会議では、福祉用具の説明や介護食の試食、場所を移動して高齢者疑似体験等、会議がマンネリ化しないように職員が順番で企画する等工夫している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例やケアの取り組み方その他少しでも疑問を感じたら、市の担当に相談している。	相談がある時は、市の介護課を訪ねて直接話をしている。様々な相談に親切に対応してもらい、よい関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に参加し、身体拘束禁止の認識を高めている。 ・玄関や居室は開錠している。 	各ユニットの出入り口にセンサーは付いているが、施錠はされていない。入居者一人ひとりの性格や行動を把握し、見守りを行っている。外出したい様子が見られる時は、散歩や買い物、別ユニットへと声かけし、その場に合った支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、申し送りを徹底することで、日頃から虐待防止に努めている。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修の資料をもとに、勉強会を行って職員の理解を深めるようにしている。	職員は、交替で外部研修に参加している。参加した職員はレポートを作成し、他の職員に伝達研修を行っている。現在、制度を利用されている方はいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書及び重要事項説明書の読み合わせや説明を行い、一方的な通達にならないよう心がけている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、訪問時や電話等で意見や希望を伺って、速やかな対応が出来る様に努めている。	毎年家族アンケートを行っており、提出された要望や意見に早急に対応している。家族会も年に1回開催し、家族が意見を出しやすいように地域包括支援センターの方に司会をお願いし、職員は同席していない。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者共にスタッフ全体の会議で職員の意見を聞くように心掛けている。又、個別にも意見を聞き運営に取り入れている。	毎月のスタッフ会議で職員が意見を出せる場を作っている。日々の生活の中で気づきがある時はその都度、ホーム長やユニット長に相談している。また、代表が直接話を聞くこともある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は各職員の勤務状態を把握し、各々のレベルアップの研修参加に努めている。 ・希望の勤務時間や休みは出来る限り添えるようにしている。 ・パート職員から正職員の体制もある。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・採用にあたっては、性別や年齢等で対象より排除することはなく、本人の介護に対する考え等を重視している。 ・職員が働きながら資格取得や技術、知識向上出来る様に支援している。	採用にあたっては、条件を設けておらず、未経験者も採用している。初めに職場体験をし、ホームの雰囲気等を気に入って就職した職員もいる。代表は、職員の資格取得を応援している。研修に参加しやすくなるよう勤務を調整したり、試験前には勉強に専念出来るよう職員全員で協力する体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議やミーティングでは勿論の事、日々のケアの中でも入居者に対する人権を尊重するようアドバイスしている。	外部研修や内部研修によって人権教育に取り組んでいる。今後、市から講師を招く出前講座や、人権啓発センターより図書やビデオを借り研修を行う予定もある。代表・ホーム長・ユニット長は、日頃から職員の言動や行動に気を配っており、不適切な事があればその都度個人的にアドバイスや注意を行っている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望も重視し、外部・内部の研修等に参加させ知識や技術の向上に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議では近隣のグループホームにも参加を呼びかけ意見や情報交換を行っている。また、地域の「ささえあいの会」に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、ケアマネージャーから情報を得るとともに、事前に本人と面接をして生活状況を把握し、5日間の体験入居を行いホームで安心して生活出来る様努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのサービスの利用状況や家族の不安や悩みを伺い、家族も安心して生活出来る様な関係を築くことが出来るように心掛けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、生活暦を大切に支援できるように努めている。他のサービス利用が必要な場合はケアマネージャーとも話し合い本人と家族にとって一番必要な支援を見極め対応するよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒にいる喜びを感じる家庭」の理念を基に、利用者や職員が共感出来る生活を送る事が出来るような信頼関係を築いていけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を月1回発行する通信に写真をのせ、遠方の家族にも本人の様子が分かるようにしている。電話との外出や電話の機会を支援している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からの情報を基に、個人レクなどで馴染みの場所や人との関係が継続できるように支援している。	入居者への年賀状の送り主を記録し、入居者が年賀状を出せるよう支援している。また、昔住んでおられた地区の神社参拝や、以前の仕事に関する映画にお連れする等、個人対応が出来ている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一緒に食事をしたりレク等で楽しい場面を作るような声かけをしている。 ・洗濯物をたたむ時など皆で仕事を共有できる場面を作っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や電話等で継続的な交流を図っている。又、他事業所に移られた場合は面会に伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常的な会話や様子、個人的な会話で本人の意向の把握に努めている。 ・職員間で情報を共有できるように、日々の申し送りやミーティングにおいては本人の気持ちを思いながらその意向の確認検討を行っている。	アセスメント、短期目標、長期目標はそれぞれ定期的に見直している。入居時は、特に情報を得やすいので本人や家族からの聞き取りを大切にしている。その後は、それを基に一人ひとりのペースに合わせて家族の意見を伺いながら検討している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の馴染みの品を持って来てもらい、今までの生活環境に近づけられる様に努めている。また、家族からも情報収集を行い、安心して生活出来る様に支援している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の言動行動などの生活状況を記録し、職員全員が把握出来るように取り組んでいる。申し送りや職員間の会話の中でも情報を交換して状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から意向を聞き、会議でアセスメントをもとに課題を分析し意向が反映できるように介護計画を作成している。	担当者が事前に、本人や家族の意向を聞き、その中で現状に沿うように優先順位を職員が提案している。医師からの指導を受け計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の状況や介護計画の実施状況を個別に記録し、職員間で情報を共有すると共に、毎日の申し送り時に気づきや工夫を報告しあい介護計画に生かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じてその都度対応していける様に家族とユニット全体で協力体制を整えて支援を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・消防署立会いのもと防火訓練を実施している。 ・単独外出時は地域の警察や近隣の事業所、近所方々に協力してもらえるような体制をととのえている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前よりかかりつけ医がある方は入居後も利用が継続出来る様支援している。また、かかりつけ医が変わるときも本人の不安がないよう医療機関との連携をはかっている。	入居時に医療機関の希望を聞いており、それに沿った支援をしている。協力医療機関とも日頃から連携がとれており、嘱託医とは24時間連絡がとれる体制が出来ている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は毎朝協力医療機関院長に入居者の状態を報告している。日常的にも院長や担当看護師の助言や相談を得て支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院に向けて、また退院後の生活に不安が無いよう病院、家族と話し合う場を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からの助言を得、家族と本人の希望を尊重し事業所で出来る事を説明して支援している。急変時には素早く対応出来るよう病診連携の体制が出来ている。	状況に合わせ、本人と家族の希望に沿って支援している。家族が付き添って泊まれる場合もあり、ホームとして可能な限りの支援をしている。職員や他の入居者にも動揺はなく、自然な看取り介護が出来ている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が開く救急処置の講習を含め、外部研修や事業所内研修を行っている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立合いでの消火・非難訓練を行っている。地域の方にも参加を呼びかけ協力が得られるよう働きかけている。	春と秋に入居者全員参加の避難訓練が行われている。職員は必ず年に1回は訓練に参加している。集合場所、避難場所も決めており、災害用リュックには3日分の備蓄品を準備している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉かけや対応に心がけている。会話の内容も尊厳が損なわれないよう配慮している。	入居者との会話は方言を使いながらも丁寧に話している。名前呼びかけると落ち着かれる方には家族の了承を得て呼びかける等、状況に合わせた対応をしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で本人と職員の信頼関係を築き、本人が希望を言い易い環境作りに努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールでのケアではなく、各人その日の生活のリズムや気持ちに合わせて対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や行きつけの美容院を定期的にご利用したり、外出時はTPOにあった服装を選んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや希望も取り入れながら、調理・味付け・盛り付け等を行っている。外食や宅配も利用しバラエティーに富んだ食事を職員と一緒に楽しんでいる。	食材は近くのスーパーで調達し、職員が調理しているため、家庭的な味付けで入居者や家族にも好評である。入居者と一緒に調理や片づけをしている。外へ食事に行ったり、行事食を楽しんだり計画を立て実行している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を記録し把握している。好みを取り入れながら食べやすい形状や味付けを工夫している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行い清潔保持・肺炎防止に努めている。週1回歯科往診時には口腔内の相談や助言を頂いている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせて排泄の誘導時間、おむつやパットの種類を対応している。常に見直しをし、快適な生活ができる様努めている。	個人対応により、基本的に昼間はトイレでの排泄支援をしている。その日の状態や体調を考慮しながら適切な支援をしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握して、自然排便につながる様水分や食事、運動などの工夫をしている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	水曜日以外は毎日入浴を実施している。入浴時間は本人の希望を重視している。	水曜日は外出や行事を予定しているため入浴は休みとしているが、希望があれば対応する。仲のよい入居者が一緒に入られることもある等一人ひとりにあった支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように昼間の過ごし方を工夫している。寝具の清潔にも心がけている。夜間眠れない方にはお茶を飲んだり話をして安心できるまで一緒に過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬の処方、効能、副作用の説明書を介護記録にファイルして全職員が分かる様にしている。処方や用量の変更時には申し送り及び伝達ノートで全職員が分かるように徹底している。また、常に協力医療機関との連携を図っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力が発揮出来る様に手伝いの声かけをし、感謝の言葉を伝えている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々ホームの近所を散歩したり、買物と一緒にいくような支援をしている。本人の好きな観劇や、桜見やコスモス見学など季節も感じてもらえるようにしている。	天候の良い時は、散歩や買い物に出かけている。外気浴をしながら、季節を感じられるように支援している。また、入居者の希望で博多座や新劇座等にもお連れしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を手元に持っている方には外出時に自分のサイフから支払う等の機会を作っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でいつでも電話はかける事ができる。遠くに住んでいる家族には手紙や絵などを通信と一緒に送付する工夫をしている。また、年賀状は挿絵をプリントするなどの支援をし、交友関係が途絶えないようにしている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関や裏庭に花をや野菜を植えて季節を楽しむことが出来る。室内は壁飾りや置物で季節感をだしている。 ・各部屋に温度計を配置し、室温を調整すると共に加湿にも気を配っている。	リビングは陽射しが入り明るく、家具と家具の間隔も考えて配置されている。季節に合った装飾がされており、大人が生活する空間としての配慮もされている。廊下は車椅子が離合出来るスペースが取られている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには座り心地の良いソファ、廊下にはベンチを配置し、いつでも入居者同士が会話を楽しめるようにしている。また、椅子の向きや玄関に小テーブルと椅子を配置することで、人の気配を感じながらも独りになる居場所が確保できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みのある家具や思い出の品を出来る限り持ってきてもらうようにしている。新しい品物を買う場合も本人と一緒に買いにいたり、好きな色柄を選ぶなどの工夫をしている。	基本的にエアコンと照明器具以外は、本人の気に入ったものが持ち込まれている。必要な方には電動式ベッドを貸し出している。居室の入口にはきれいな色ののれんが下がっていたり、早く就寝される方には廊下の照明に配慮し貼り紙をする等の工夫がされている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全に生活出来る様にトイレや浴室にも手すりを付けて自力での歩行や立位が出来る環境を整えている。 ・一人ひとりの身体に応じて、安心して生活できるように目印や表札の工夫をしている。		